

税理士の ひとりごと

No. 132

命までは取られない

税理士 齋藤明

50歳を超えたくらいからでしょうか？ 飲み会の席などで病気や健康の話題を耳にすることが増えたような気がします。そんな時には、比較的健康な私は「また始まったよ」と少々ウンザリしながらそれを聞き流していたのですが、ふと気が付けば私も、体調や健康のことが気になる健康オジサンになつていたのです。

最近私がそんな風になつてしまったのには理由があります。それは今年の10月にメンタワイ諸島というところにボートトリップに行くことになったから。2週間ずつと、定員15名ほどのボートに乗って、プロサーファーレベルの人にしか乗れないようなデカ波を追いかける旅。正直申し上げて、それは私のレベルで乗れる波ではないのです。

礁の上で波に揉みくちゃにされた結果頭部を20針縫う大怪我を負つてしまったと聞いています。そんな私に、今回のボートトリップの主催者からは「サイトーさんはくれぐれも無理しないで、自分の乗れそうな波にだけチャージしてください」と念を押され、正直私は少し怖気ついてしまっているのです。

思い起こせば、私は生きていくうえで大切なことの多くをアウトドアで学んできました。本気のアウトドアの場においては、暑かったり、寒かったり、痛かったり、シンドかったり、厳しい状況に追い込まれることが頻繁に起こります。そんな時に、「あゝ、もう駄目だ！」「あゝ、痛い！」「あゝ、帰りたい！」なんて口に出したとしても何の解決にもなりません。それどころか、仲間の足手まといにしかありません。だから私は、そんな時にこそ、笑って周囲を鼓舞できるような人になりたいと思つて生きてきました。

でもそれは、丈夫な体と体力と、どこか呑気でタフなメンタルがあつてこそできること。だからこそ、今年が残り少ない自らの健康寿命つてやつに賭けるラストチャンスだと思つたのです。

よく経営者の方の自伝などの中で「命までは取られない」という言葉が出てきます。それは多くの場合あくまでモノの喩えとして、失敗を恐れずにチャレンジをしてみるという意味で使われているのであつて、実際に自分の身体を生命の危機を感じるほどの危険にさらすことを前提として用いられているわけではありません。

その点、私も「さすがに命を失うことはあるまい」と思いながらも、その一方で「致命的な大怪我を負つてしまいかもしれない」ということを覚悟のうえでポータトリップに行くのですから、病気をしない、怪我をしないという意味で、世間一般の健康オジサンから見たらある意味狂気の沙汰と思われる

てしまうかもしれません。ですが、私はこの機会を失いたくないのです。

あるデータによると、高齢化と未婚化が進行する我が国で孤独死する人の平均年齢は61歳で、そのうちの8割が男性なのだそう。ほぼ私と同世代の人たちです。そんな彼らの抱える絶望を、私は慮ることしかできないのですが、彼らがこれからの人生に希望を見出すことができずに「もうどうでもいいや」と生きていくことを放棄したくなる気持ちは、何となくですが理解することができるとは。人が生きていくためには、健康やお金だけではなくて、これからの未来に、何か良いことがあるかもしれないというような夢とか希望とか、そんな（曖昧なものかもしれないけど）生きていくうえでの張り合いみたいなものが必要なのだということも。

だからと言って、そんな曖昧なものを追いかけて、2週間も仕事や家庭を

ほつたらかして電波も届かない外洋を小型船に乗ってフラフラしに行くなんて、還暦前のオジサンがやることにしては少々無鉄砲でセンチメンタル過ぎやしないだろうか？と、私なりに色々思うところはあります。ですが、誰が何と言おうと、私は「You may be right. I may be crazy」A Billy Joelの曲を口ずさみながら、さっさとポートに乗ってしまつてもいいです。だって、あまり深く考え過ぎて気を病んでしまつては元も子もありませんから。



Akira Saito

川橋 昭和
士橋 昭和
務京 昭和
学京 昭和
法京 昭和
計京 昭和
理京 昭和
士京 昭和
会京 昭和
は京 昭和
波京 昭和
に京 昭和
乗京 昭和
る京 昭和
か京 昭和
？京 昭和
」http://blog.livedoor.jp/saiki555/

【近況】暑い。暑すぎます。昨日ホームセンターのガーデニングコーナーに行ったら、軒並み夏野菜の苗が枯れてしまひそうなくらい萎れていました。